

令和6年度 学校評価書 (計画段階)

特4

福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	生徒一人一人の人權を尊重した教育活動を行うとともに、すべての生徒の可能性を引き出す知的障がい教育の充実を図る。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】 ・食育研究を通じた、生徒の食生活改善への意識向上 ・組織的・計画的な生徒指導体制の整備 ・生徒主体の自治活動や余暇活動の充実	【一歩前へ】：主体的な学びに向けた授業改善	①実態に応じた教育課程の評価・改善 ②生徒が自ら考え・判断し主体的に学ぶ授業の実践(自己選択に関する指導とICTの効果的活用) ③知的障がい教育及び教科教育の専門性向上 ④障がいに伴う困難を改善・克服する自立活動の充実		
【課題】 ・教育活動におけるICTの活用推進 ・生徒の主体性を育む指導の充実 ・教職員の専門性向上 ・保護者と教職員のさらなる連携強化	【社会に一番近い学校】：3年間を見据えたキャリア教育の充実	①個に応じたキャリアカウンセリングの充実 ②職業学習を中心とした基礎的・汎用的能力の育成 ③学校・寄宿舎における生活スキル向上に向けた指導・支援の充実		
	【北学魂】：生きる力を育む体験活動の充実	①年間計画に基づいた「総合的な探究の時間」の実践 ②就業体験・現場実習等、社会の中で学ぶ機会の充実 ③生徒が主体的に活動できる学校行事等の充実		
	【仲間との絆】：人権教育、道徳教育の充実	①自己を見つめ、物事を多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業の計画的な実践 ②「挨拶の励行」と「言語環境の整備」 ③「いじめ」のない安心・安全で思いやりのある学校づくり		
	【チーム北学】：社会に開かれた学校づくり	①家庭・地域・会社・関係機関との連携・協力の充実 ②交流および共同学習の充実、地域の催しへの積極的な参加 ③特別支援学校のセンター的機能の発揮と必要に応じたネットワーク機能の活用		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	教務課	ITを有効に活用し、主体的な学びを促進する授業を展開するための授業提案や研修会を実施する。		
	庶務課	毎月の教育課程検討委員会、現行の教育課程を見直し、更なる充実を図る。 各分掌と連携し、保護者等が必要とするPTA活動の企画運営をおこなう。 規約改正を含め、各団体が連携して活動できる組織改善に努める。		
生徒指導部	1学年	話し合い活動等において、自分自身の障がいを受容するとともに、他者を尊重する態度を育む。 正しい言葉遣いや挨拶が自ら実践できる態度を育む。		
	2学年	生徒自身の興味関心を引き出し、生徒自らが主体的に学ぶ授業の計画、実施、評価、改善を行う。 生徒自身が学校生活の主体者として携われるように、学年委員を立ち上げ、話し合い等の場を設ける。		
	3学年	社会参加を見据えて、「仕事、生活、余暇」の充実を図るための学習機会を設ける。 より良い学校づくりの主体者になれるように学年委員会を組織し、具体的な取り組みを行う。		
	生徒指導課	自己指導能力をもち、社会的・職業的に自立した、たくましい生徒の育成 自己有用感を育み、共同的な人間関係を構築することによって、「いじめ」のない集団の育成に努める。 責任感のある生徒を育成するために、自己選択・自己決定の場を設け、自主的かつ主体的な活動を支援する。		
	人権教育	障がい認識(障がい受容)の促進と人権意識の向上 教育活動全体を通して、様々な場面で自他を認め合う人權を尊重する態度と実践力の育成に取り組む。 「いじめ」を絶対に許さない安全・安心な学校にするために、生徒・職員が一体となって言語観環境を整備する。		
	保健課	自らの健康課題に気づき、心身共に健康な毎日過ごすことができる力の育成 生徒自身が健康や健康管理に興味を持ち実践できるように、卒業後の生活を見越した指導の充実を図る。 食事に關して適切な栄養摂取を促すことで不定愁訴を減らし、健やかな学校生活をおくることができるよう食育の充実を図る。		
	寮務課	基本的生活習慣の確立と集団生活への適応をめざして、生活スキルの向上を図り、自治活動や余暇活動を主体的に行う意欲や態度の育成 生徒の可能性を引き出すために、将来をみすえた取り組みとして寄宿舎行事の中に生活スキルアッププログラムや外食、購入学習などの体験的活動を行い、社会生活に必要なスキルを身に付けることができるようにする。 生徒が主体的に取り組める自治活動や余暇活動を取り入れ、生活に潤いを持たせるとともに、活動をおとすルールやマナーを知り、協力的な態度を育み、適切な判断力、行動力を身に付けることができるようにする。		
指導部	進路指導課	自己理解を進めながら、主体的に進路選択をするために必要な力を育成する。 進路指導の視点から生徒に必要な力やその段階、指導すべき内容・指導方法を模索し、共通理解を図る。 また他の分掌と連携しながら、挨拶の指導に関する具体的な取組を計画・実施する。 進路指導に関する年間予定を基に、時宜に合った系統的な指導に取り組むことができるよう、体制づくりに努める。		
研修部	支援研修課	校内支援・センター的機能の充実及び知的障がい教育に対する専門性の向上 必要に応じて迅速にケース会議を行うとともに、教育相談や巡回相談についての広報活動を行い、関係諸機関との連携を深め、校内支援の充実及び地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮する。 職員研修をおとして本校生徒が抱えている課題を共有し、生徒の主体的な学びをサポートする授業の在り方について協議する。		
事務部	事務課	学校教育活動の推進を図るため経営参画型の事務室業務を執り行う 各分掌と情報の共有を図り、学校教育活動の更なる充実を図るため効果的な予算計画と執行を行う。 生徒・保護者・教職員に対して、より理解の深まる情報発信を行う。		

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた今後の改善策

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	<p>A：適切である</p> <p>B：概ね適切である</p> <p>C：やや適切である</p> <p>D：不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	